

エー・アンド・パートナーズ税理士法人様



「地震で在宅勤務を余儀なくされました。顧問先の確定申告の提出は、ISL Onlineの遠隔操作を使ったので、スムーズに終わられました」

エー・アンド・パートナーズ税理士法人  
山田拓巳氏

(エー・アンド・パートナーズ税理士法人について)  
新潟と東京の二箇所を拠点とする税理士法人。代表は、経営コンサルタントとして多くの著書がある岡本史郎氏。従業員数11名。東京事務所は4名。山田氏は東京事務所のマネージャー。

エー・アンド・パートナーズ 税理士法人 東京事務所が、3月11日の東日本大震災の後の確定申告の提出業務を、ISL Onlineを使って、どのように完了させたかを、山田拓巳マネージャーに詳しく聞きました。

■ 3月11日から3月17日にかけてのエー・アンド・パートナーズの勤務態勢

日付	内容	備考
3月11日(金)	地震発生	スタッフに怪我無し。事務所に被害無し。 スタッフ4名のうち、山田氏を含む3名が事務所に宿泊（この日、クライアントの確定申告の電子申告を行う予定だったが、地震のため延期）
3月12日(土) 13日(日)	休日	-
3月14日(月)	朝も電車が動かず。急遽、在宅勤務に	ISL Onlineを使って自宅から電子申告作業を行う
3月15日(日) から 3月17日(木)	在宅勤務	出勤可能な一名のみ通常出勤
3月18日(金) ~	通常勤務を再開	-

■ 普段から使い慣れていたもので、いざという時も焦らずにすんだ。

— 「災害発生時は、ISL Onlineを使って、自宅から会社パソコンを遠隔操作する」ことは、あらかじめ決めていたのですか。  
いえ、事前に手順を策定していたわけではなく、15日(月)の朝にスタッフと話し合っただけです。

ISL Onlineは、クライアントのパソコンを遠隔操作するなどの用途で、ふだんから使い慣れていたもので、「出社できないのなら、自宅からISL Onlineで事務所のパソコンを遠隔操作すればいい」とは、スタッフ各自に、ごく自然な発想として浮かびました。その日は、横浜の大江も同じくISL Onlineを使って電子申告を行いました。

— 電子申告のメットまであと一日。なのに、出社できずに自宅から遠隔操作で綱渡りの申告となりました。あせりませんでしたか？

前述のとおり、ISL Onlineによる遠隔操作には普段から慣れていたので、あわてることはありませんでした。

— しかし、庫川さんが出社していなかったら、会社のパソコンの遠隔操作はできなかったのでは？ そのときは新潟本社に電話して、本社のパソコンを自宅からISL Onlineで遠隔操作して、電子申告していたでしょう(下図)。



赤線はISL OnLine接続による遠隔操作

— ISL Onlineがなかったら、どうして良かったですか。そのときは、新潟本社に電子申告の業務そのものを、そっくり委託するしかなかったでしょう。時間と手間がかかっていたはずですよ。

■ 3月11日。事務所に被害はなかったが、帰宅はできなかった。

— 3月11日、2時46分にはどこにいましたか。  
東京都内の事務所にいました。外出の準備をしていたら、とつぜん大きな揺れがありました。その後、ネットなどを通じて、これが大地震であることが分かったので、その日の業務は定時を待たず終了としました。

事務所では、本が少し倒れただけで特に被害はなく、スタッフにも怪我はありませんでした。その日は、私とスタッフ2名が事務所に宿泊。帰宅は、翌日の早朝となりました。

— その時点(12日 土曜 朝)では、翌週14日(月)の業務はどうするつもりだったのですか。通常どおり出社して勤務するつもりでした。地震が起きた11日は、クライアントの確定申告の提出作業を行う予定でした。地震の起きた2時46分までに約半分は完了していましたが、残り半分が提出できなかったため、それを月曜に出社して行う予定でした。

■ 3月14日。急遽、在宅勤務に。ISL Onlineにより電子申告の作業を遠隔操作で実行

— 3月14日(月)は出勤できましたか。  
当初は出勤するつもりでしたが、電車がまだ動いていなかったため、その日の出社は不可能と判断。自宅パソコンからスタッフに、「出勤が不可能な人は自宅待機してください」とメールを打ちました。

都内に住んでいる庫川だけは、地下鉄が動いていたので出勤できましたが、私と横浜の二人は、結局、在宅勤務になりました。

— 確定申告の提出はどうしたのですか。  
ISL Onlineを使って電子申告しました。

— 具体的な手順を教えてください。

自宅パソコンから、事務所のパソコンを遠隔操作して、電子申告用サーバに接続しました。電子申告用サーバ(※1)は、新潟本社にあります。地震がなければ事務所から新潟サーバに接続して申告していたところでした。しかし、15日は、私は在宅勤務で事務所に行けなかったため、出勤していた庫川に急遽電話して、自宅パソコン(※2)と、事務所のデスクトップパソコンをISL Onlineで接続してもらい、そこから新潟サーバに接続して、申告作業を行いました(下図)。



赤線はISL OnLine接続による遠隔操作

※1 エー・アンド・パートナーズはTKC全国会の会員です。「電子申告用サーバ」とはTKCのシステムがインストールされたサーバを指します。

※2 会社配給の業務用ノートパソコンであり、私物パソコンではありません。



### ■遠隔操作の電子申告。30通の申告を2時間で処理

— 自宅からの、パソコン遠隔操作はスムーズにできましたか。  
自宅の回線がフレッツ光だったこともあり、遠隔操作はストレスなく行えました。その日は約30通を申告しましたが、作業は1～2時間で終わりました。

— 在宅勤務はいつまで続いたのですか。  
3月14日(月)から17日(木)の4日間です。翌18日から通常勤務に戻りました。なお、労務管理上は、在宅勤務中もすべて「出社扱い」としました。

### ■産休社員の在宅勤務への応用も検討

— 今回、在宅勤務を経験して、何か気づきはありましたか。

「税理士の仕事は在宅でもできる」と改めて実感しました。在宅勤務は、災害時だけでなく、普段から取り入れてもよいのかもしれない。

実は女性スタッフの小林がもうすぐ二度目の産休に入ります。前回2年前の産休の時は、代わりの臨時スタッフを雇いましたが、今回は、ISL Onlineを使って在宅勤務してもらうことも検討しています。

臨時スタッフを雇うのも労力がいらすし、小林にしても、産休中も何らかの給料が入った方がよいと思いますし(※)、「産休」よりは「在宅勤務」の方が、会社と小林の両方にとって良いと思いますので。

個人的には、税理士業や簡易制作業のような、1) 大きな設備を必要としない、個人プレー型(内職型)の勤務形態であり、かつ、2) 出産・育児世代の女性スタッフが多くいる会社ならば、オンライン在宅勤務が有効であるように思います。



夏から産休に入る小林氏

※小林氏は、正社員ではなく、時間給の契約スタッフです。

## オーシャンブリッジのその他の在宅勤務ソリューションについてヘビーユーザーの山田氏に評価を聞いてみる

— 今回、イー・アンド・パートナーズ様が使ったのは、ISL Lightです。現在、ISL Onlineファミリーには、ISL AlwaysOn、ISL Pronto、ISL Groupなどのソフトウェア群も追加されています。いずれも在宅勤務に便利なソフトだと思うので、今後のご使用を検討いただければ幸いです。

それって追加費用はかかりませんか？

— かかりません。月々の使用料は今と同じで、使えるソフトの数だけ増えます。ですから「使った方がトク(使わないと損)」ということになります。なるほど、では、それぞれの製品について教えてください。

### ■ISL AlwaysOn(常時接続型の遠隔操作)への感想～「非常時に役立ちそう」

— まずISL AlwaysOn。これはAlwaysOn(常時オン)の名前のとおり、ISLが常時接続(いつもつながりっぱなし)となり、遠隔操作が常に可能になります。今回の在宅勤務のときは、偶然、出社していた庫川に電話して、会社のデスクトップと私の自宅パソコンをISL Lightでつなぎました。でも、ISL AlwaysOnがあれば、庫川が出社できなかったとしても接続(遠隔操作)が可能だったということですか。

— はい、そうです。会社に24時間電源オンのパソコンを一つ用意しておけば、山田さんの自宅パソコンからいつでもそれを遠隔操作できます。

それは災害など非常時には、有効な仕様ですね。

### ■ISL Pronto(企業用チャットツール)への感想～「遊べない仕様なら良いと思う」

— 次にISL Pronto。これは企業用チャットツールです。社員2,3人での、ちょっとした打ち合わせを、チャット(おしゃべり)ツールを使って行います。

チャットですか…。そう聞くと少し抵抗がありますね。

実は、むかし新潟・東京間のコミュニケーションにチャットを使おうと試みた経験があります。しかし、社員同士が、仕事の会話じゃなく「おしゃべり」を始めてしまったので、全面禁止にしました。チャット(おしゃべり)っていう名前がよくないのでしょうか。

— ISL Prontoの場合、会話内容の履歴をチャット参加者が見ることができます。記録として残るので、「遊びの使用」を防ぐ『抑止力』ともなる仕様です。抑止力があるのなら、使えるかもしれません。

— オーシャンブリッジでも地震の時は在宅勤務となりましたが、社員間のコミュニケーションは、主にISL Prontoを使って行いました。

メールや携帯電話ではなく、チャットを使ったのですか？

— 電話だと複数で話せませんし、メールも返信待ちになって即時性が弱いからです。

### ■ISL Prontoによる、在宅勤務時の勤怠管理～「それはアリかも」

— また、ISL Prontoを起動していると、画面左にチャット参加準備OKとなっている社員の名前が出ます。これにより「在宅勤務中の勤怠管理」ができます。

チャットツールに名前が表示されていることを「勤務中」と見なすわけですか。

— そうです。

チャットで話しかけて、反応がないようなら、「あれ、この人、在宅勤務のふりして、実は昼寝しているのじゃないかな」とみんなに疑われる、ということですね。

— そんなかんじです。一つの抑止力、目安になります。終業時刻になったら、ISL Pronto上で挨拶してオフにして勤務終了というイメージです。

そういう使い方ができるのなら、チャットもいいかもしれないですね。

### ■ISL Group、Zyncro(ジンクロ)への感想～「企業内クロードなソーシャルツールが欲しい」

— 続いてISL Group。こちらはパワーポイントの共有閲覧も可能な簡易Web会議システムです。「企業内クロードなSkype」のようなものです。

「企業内クロード」というのは良いですね。実は、ウチはSkypeについては、新潟と東京のオフィスの様子を常時Skypeで映像中継し合うなど、ヘビーユーザーです。顧問先との会話にもSkypeをよく使います。しかしSkypeは、インターネットツールの特性として「オープンすぎる」点に、少々困っています。自分とスタッフで内部の会話をしている場合でも、自分が「オンライン」であることは社外にも分かってしまうので、顧問先が話し掛けてきて、仕事が中断されるなどの弊害があります。「企業内クロード」なら、その弊害が解決できそうです。

— その他、まもなく企業向けのソーシャルコラボレーションツール「Zyncro」も発売します。企業向けツイッター&Dropbox的なツールです。

ウチでも昔、Twitterを業務連絡に使おうとしたことがあります。でも結局、社員が本当に仕事に関係のない「つぶやき」を始めてしまったので、使用をとりやめました。このようにソーシャルツールの業務使用には、自由の意味をはき違えた社員が「遊び始めてしまう」という副作用が伴います。オーシャンブリッジのような企業向けシステムの会社が、そういう弊害を解決するソフトを出してくれるのなら、良い話です。

— ありがとうございます。イー・アンド・パートナーズさんには、これからもISL Onlineの良きヘビーユーザーとして、製品改善のための厳しいご意見をいただければ幸いです。

いえいえ、これからもがんばってください。

— 今日はありがとうございました。

リモートコントロール プラットフォーム  
ISL Online 15日間 無料 体験の申込は

➡ [www.islonline.jp](http://www.islonline.jp)

●ISL Online、ISL LightはXLAB d.o.o.の商標です。 ●その他の社名または商品名等は、各社の登録商標または商標です。



ISL Online国内総販売代理店  
株式会社オーシャンブリッジ

〒150-0002  
東京都渋谷区渋谷1-8-3 TOC第1ビル9F  
isl@oceanbridge.jp  
03-5464-2112(営業部)

●お問い合わせ先

●ISL Onlineは XLAB d.o.o.の商標です。 ●その他の社名又は商品名等は、各社の登録商標又は商標です。

この印刷物の内容は、2011年7月現在のものです。